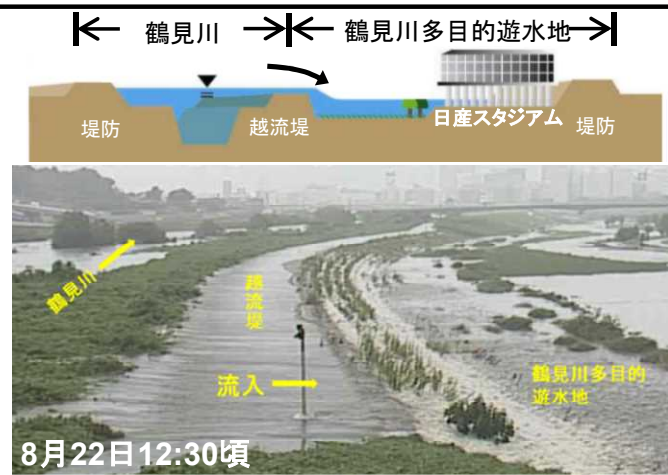


事業の効果【鶴見川水系 鶴見川多目的遊水地等】

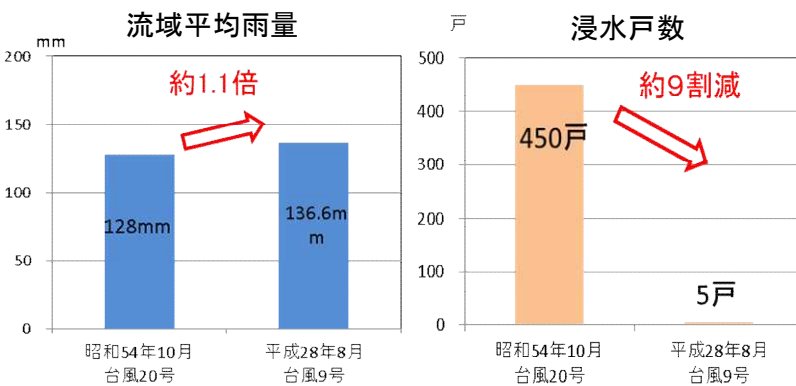
- 鶴見川多目的遊水地では、約42万m³の洪水を貯め込みました。この結果、越流堤直下流の亀の子橋水位観測所の水位は約50cm低下したと推定。(平成15年6月の供用開始以来、17回貯留し歴代4位の貯留量を記録)
- 鶴見川遊水地が無かった場合、はん濫危険水位を上回っていたと推定され、横浜市、川崎市で避難勧告等が発令された恐れがありました。
- 昭和54年10月洪水と比較すると、雨量は1.1倍であったが、浸水面積を約9割減しました。(450戸→5戸)



鶴見川多目的遊水地は、平常時には公園等として利用

鶴見川の水位が上昇し、越流堤から鶴見川多目的遊水地に流入

鶴見川多目的遊水地など、これまで講じてきた総合治水対策による効果



※本数値は、速報値であるため変更となる可能性があります。

平常時

貯留時

日産スタジアム

8月22日14:30頃

約42万m³を貯留した鶴見川多目的遊水地